

平成 29 年度 事業報告書

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4～9
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	10
津名デイサービスセンター	10
千鳥会居宅介護支援事業	11
千鳥会在宅介護支援センター	11
家族介護教室・家族介護者交流事業	12
地域支援事業 (ふれあいの集い ちどり・高齢者住宅等安心確保事業・配食サービス・介護相談窓口)	12～13
グループホーム しおさい	13
しおさいデイサービスセンター	13～14
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	14
ゆうらぎデイサービスセンター	15
ゆうらぎ訪問介護ステーション	15
養護老人ホーム 北淡荘	15～16
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	16
佐野デイサービスセンター	16
地域密着型特別養護老人ホームほほえみ	17
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	17
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	18
ちびっこランド ちどり	18

2017(平成 29)年度 事業報告書 社会福祉法人 千鳥会

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
旧 理事会	平成 29 年 6 月 6 日	千鳥会 法人本部	9/9	①平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告の件 ③平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告の件 ④平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 監事監査報告の件 ⑤その他	なし	船越洋子
評 議員会	平成 29 年 6 月 26 日	千鳥会 法人本部	7/8	①平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 補正予算の件 ②平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業報告の件 ③平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 決算報告の件 ④平成 28 年度 社会福祉法人 千鳥会 監事監査報告の件 ⑤社会福祉充実残高の算定について ⑥社会福祉法人 千鳥会 新理事・新監事選任について ⑦諸規定変更の件 ※就業規則 ⑧その他	井高孝一	船越洋子 宮尾慶子
理 事会			6/6	①社会福祉法人 千鳥会 理事長選任・業務執行理事選任について ②諸規定変更の件 ※就業規則 ③その他	なし	船越洋子 宮尾慶子
理 事会	平成 29 年 8 月 28 日	千鳥会 法人本部	5/6	①小規模多機能型居宅介護事業所 んくもり 借入金一括返済について ②社会福祉充実残高について ③ケアローソンの出店について ④諸規定変更の件 ※給与規定 ⑤その他	高野さち	船越洋子 宮尾慶子
理 事会	平成 29 年 12 月 25 日	千鳥会 法人本部	6/6	①平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 第一回補正予算案の件 ②諸規定変更の件 ※育児休業規定 ③福祉用具貸与事業所認可申請の件 ④ケアローソン(介護相談窓口)の件 ⑤宅配サービス実施の件 ⑥ISO9001 自己適合宣言の件 ⑦社会福祉制度改正(社会福祉充実残高)について ⑧その他	なし	船越洋子 宮尾慶子
理 事会	平成 30 年 3 月 26 日	千鳥会 法人本部	6/6	①平成 29 年度 社会福祉法人 千鳥会 第二回補正予算案の件 ②平成 30 年度 社会福祉法人 千鳥会 事業計画案の件 ③平成 30 年度 社会福祉法人 千鳥会 新年度予算案の件 ④諸規定変更の件 ※給与規定 ※準職員規定 ⑤ISO9001 (2008 年版)『自己適合宣言』の件 ⑥社会福祉制度改正(社会福祉制度改革への対応) 「社会福祉充実残高について」 ⑦ちびっこランド(保育事業)移転の件 ⑧その他	なし	船越洋子 宮尾慶子

2. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
全職員	兵庫県警察 本部 サイバー犯罪対策課 巡查部長 谷口様	サイバー犯罪被害対策について	2017年7月26日(水)	41名
			2017年7月27日(木)	35名
			2017年8月2日(水)	36名
			2017年8月3日(木)	41名
			2017年8月9日(水)	25名
			2017年8月10日(木)	28名
希望者	マスコット株式会社 久保田様・篠原様	平成30年度 介護報酬・制度改正対応セミナー	2018年3月9日(金)	31名

3. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目/実施場所		参加人数
職員福利厚生事業	2017年11月23日(木)	バレーボール	神戸ワールド記念ホール	12名
	2017年9月15日(金)	BBQ	佐野デイサービスセンター(雨天決行)	36名
	2018年2月19日(月)	研修発表 立食パーティー	法人本部	44名
職員親睦会	2017年5月26日(金)	「ウェスティンホテル淡路」		172名
忘年会(ゴールド)	2017年12月8日(金)	「ポンテメール」		52名
新年会(ほほえみ)	2018年1月12日(金)	「長松旅館」		43名
新年会(ゆうらぎ・北淡荘)	2018年1月19日(金)	「きとら 津名店」		73名
新年会(佐野デイ)	2018年1月20日(土)	「津名ハイツ」		5名
新年会(ぬくもり)	2018年2月4日(日)	「石挽そば丸中」		10名
新年会(しおさい)	2018年2月27日(火)	「鼓や」		13名
職員健康診断 (前期・後期)	2017年4月～5月	ゆうらぎ・北淡荘		36名
	2017年5月～6月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ		97名
	2017年8月	ほほえみ		56名
	2017年10月～11月	ゆうらぎ・北淡荘・本部		104名
	2017年11月～12月	ゴールド・しおさい・ぬくもり		34名
	2018年2月	ほほえみ		25名
職員腰痛検査 (前期・後期)	2017年8月	ほほえみ		45名
	2017年8月～9月	ぬくもり・佐野デイ		18名
	2017年8月～10月	ゆうらぎ・北淡荘・しおさい		100名

	2017年8月～12月	ゴールド	46名
	2018年2月	ほほえみ	47名
	2018年2月～3月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	84名
	2018年3月	ゆうらぎ・北淡荘	82名
インフルエンザ 予防接種	2017年11月	ゆうらぎ・北淡荘・本部・ほほえみ・佐野デイ	168名
	2017年11月～12月	ゴールド・しおさい・ぬくもり	93名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

4. 入社式（入職者）・退職者

入社式	新入職員数
2017年4月3日	11名
2017年8月1日	1名
2017年10月2日	4名
2018年1月5日	2名
2018年2月1日	5名
2018年3月19日	2名
合計	25名

月	退職職員数
4月	2名
5月	1名
6月	2名
7月	1名
8月	3名
9月	2名
11月	2名
12月	6名
1月	1名
2月	3名
3月	6名
合計	29名

5. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	1名
育児休業	0名
短時間勤務	0名

6. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護支援専門員	3件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉士	0件
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	4件
自己啓発支援	報奨金	調理師	1件
自己啓発支援	報奨金	住環境コーディネーター2級	1件

7. 地域貢献事業

① ケアローソン(介護相談窓口)

ローソンは、高齢化や健康意識の高まりを受け、社会の変化に対応した次世代コンビニモデルの構築に取り組んでいます。今回の事業は、通常のコンビニ機能に加え、ケアマネジャーなどの相談員が駐在する介護相談窓口や、地域の皆様の交流の場として活用できるサロンスペースも店内に併設しています。

① 対象店舗名称：ローソン東浦町浦店

② 開設日：2018年2月23日(金)

③ 相談窓口の運営曜日・時間帯： 月～土 10時～16時

② 宅配サービス

利用方法は、利用者がチラシから商品を選び、事業所が業者(浅川食料品店)に商品を集計した書類をファックスし、業者は品物を梱包し宅配業者に依頼し、1～2日後に自宅に届くというシステムです。

このようなサービスを利用する事で、重たい品物、大きな品物でも購入することができ、利用者の買い物難民救済に役立ていきたい。

2018年2月～ 開始

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○	○					
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続ける為には介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める事も重要である事から、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。	○		○				
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修 (委託事業)	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○	○					
地域サポート型施設 (兵庫LSA)	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に24時間体制の見守り等を行う。	○	○					

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの(公的制度の給付対象となっていないもの)

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	
職場体験 (トライやるウィーク)	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○		○			

祭り地域交流 (春・夏・秋)	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。	○	○	○	○		○	
各種ボランティア(慰問等)の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○
いきいき100歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき100歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。	○	○	○			○	
訪問サービス (介護保険外事業)	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○					
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○	○	○				
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサービス実施	○						
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託(無料)を受けて受講者にも無料で実施。			○				
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○				
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。							○
デイサービス (夕食サービス)	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。		○	○				
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目的に、三洋電気洲本工場OB団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。	○	○	○	○	○	○	○
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、NPO法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1~2日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○	○	○				
ケアローン (介護相談窓口)	高齢化や健康意識の高まりを受け、社会の変化に対応した次世代コンビニモデルの構築に取り組む。通常のコンビニ機能に加え、ケアマネジャーなどの相談員が駐在する介護相談窓口や、地域の方の交流の場として活用できるサロンスペースも店内に併設している。	○	○	○				
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。		○	○				

8. ISO9001「自己適合宣言」

※ 千鳥会における「自己適合宣言」とはISO9001・JIS Q9001:2008年度版に適合していることを、第一者(千鳥会)が実施した試験、測定、内部監査等の適切な種類の適合性評価活動に基づくことであり、要求規格を独自の規格に変更し運用した場合は、「自己適合宣言」は実施できません。但し、重複した業務や帳票等を見直すことで無駄排除を実施することは可能です。

※ 現在、名刺・ホームページ・パンフレット・広報誌等に使用しているJACOの認証マークは、2018.3.18以降使用できなくなります。2018.3.18以降の「自己適合宣言」後のマークは以下になります。



9. 情報公表サービス受審

■ 第三者評価

しおさい しおさいデイ	2018 (H30) 年 3 月 2 日
----------------	----------------------

■ サービス評価 (淡路市提出日)

ぬくもり	2018 (H30) 年 3 月 16 日
小規模ほほえみ	2018 (H30) 年 2 月 16 日

■ 指導監査

ちびっこランドちどり	2017 年 10 月 31 日
------------	------------------

10. 総括

社会福祉法人の使命を見つめなおすため、社会福祉法人を取り巻く情勢は大きく変化しています。社会福祉法人は、1951年の社会福祉事業により誕生しました。このとき、社会福祉事業の主体は行政と社会福祉法人であり、社会福祉法人は社会福祉事業を行うことを目的に設立された法人だというのが創設時の位置づけです。その後、2000年に社会福祉基礎構造改革が行われ、福祉サービスの普遍化・一般化が図られ、福祉サービス供給主体の多様化が進められたことは大きな転換です。

近年、社会福祉法人の信頼が揺らぐような様々なマスコミ報道がありました。なかでも強烈なのは、「多額の内部留保がある」という指摘です。これをきっかけに、「規制改革を進めて、他のサービス提供主体とのイコールフットイングを進めるべき」という議論が生まれました。

そして、もう一つ重大な議論は、公益法人の法人税非課税を見直すという「課税問題」です。特に、介護や保育のように他の営利企業との競合が発生している分野については、課税の公平性を確保していくべきではないかという議論も出ています。課税問題については、毎税制改正において引き続き検討のうえ、動向を注視するとされているのが現状です。

今回、制度改正より社会から問われたのは「社会福祉法人のミッション、存在意義」です。これに対して、社会福祉法人側から見た改革の視点として、1つ目は、社会福祉事業を目的とした公益法人としての役割を果たし、組織の公益性の条件の厳格化を図る必要があります、これは結果として非課税の保持に繋がるものと考えています。

2つ目は、民間組織としての主体性の確保です。そのためには、社会福祉法人が経営において、自律が必要です。更に、他のサービス提供主体とは異なる事業の在り方が求められていますので、より公益的な事業への取り組みを積極的に実施していくことが必要となります。

特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

平成 29 年度事業所総括

セラピストと連携し（介護技術向上、介護技術指導など）を充実させ、職員個々のスキル向上と、利用者ひとりひとりがその人らしく、安心して生活できるように支援することを目標に取り組みました。その結果、個々の利用者に合った福祉用具（車椅子、ポジショニング用クッション、歩行器等）の活用や適切なポジショニング、シーティング、移乗等の介助技術向上に活かすことができるようになってきています。また、職員教育、人材育成においては、平成 28 年度に引き続き今年度も実施しました。特養全体の他に、各部署単位で勉強会を実施しました。各部署単位で勉強会を行うことでより、専門的な分野に関して知識・技術を深めることができるようになりました。また異動してきた職員や経験の浅い職員に関しては、PT による週 1 回の介護技術の勉強会を実施し、福祉用具の使用法の習得や介護技術の向上を図ることができました。三人行事・ユニット行事は、日程調整、職員体制の充実等を図ることで、より安全に、個別対応が可能となり、顧客満足向上に繋がっています。

地域見守り事業（兵庫 LSA）においては、研修会において取り組みを報告し、千鳥会の取り組みを発信することができました。また、今年度は新たな取り組みとして「寄っていかんか〜！千鳥」と称して、利用者が作品を作り、その作品をバザーで販売しました。利用者自身も自分の役割を感じることが出来たことや、施設自体も地域の拠点としての役割、地域貢献、住民の行き場所づくりなどに繋がったと感じています。

平成 30 年度への課題及び展望

30 年度も引き続き、①人材育成②専門性・サービスの向上③地域貢献④情報発信を目標に取り組みたいと思います。

①②教育訓練を充実させ職員のスキルアップを目指し、外部講師の活用や実践を取り入れた年間計画を立案し、職員の質の向上を目指し、更なるサービス向上を図っていきます。そのために、昼ミーティングやユニット会議にて他職種との情報共有を密にし、新規入所者や再入所される利用者に関しては、書類伝達だけでなく、口頭申し送りを行い、居室環境やケアの内容についての方針を共有化していきます。

③地域のイベントにも積極的に参加し、家族や地域との関係性の継続に努めていきます。

④外部への情報発信⇒今までのフェイスブック・おたより・ひなた新聞・実践発表等だけでなく、他にも情報発信できる方策がないかを模索していきます。昨年に引き続き、「寄っていかんか〜千鳥」を開催し、利用者の社会参加、地域との関係性の強化を行った地域貢献を強めていきたいと考えています。又、地域にどのような支援が必要か、何が求められているのか、社会福祉法人として意識を持ち、行政の動き等の情報収集・共有に努める。

⑤安定した施設運営に向け、各部署と連携し、適正な予算管理、執行、支出を最小限に抑える工夫（経費削減）に取り組む。業務の効率化、見直し、改善を行い迅速かつ適正な業務執行に努める。

津名デイサービスセンター

平成 29 年度事業所総括

平成 29 年度の 1 年間は、より良いサービスを提供する為、他部署や他職種との連携を図る、介護技術の向上、個別ケアの充実を下記のように取り組みました。

- 教育、研修を充実し、職員のスキルアップ
- デイ会議、ケア会議で他部署、他職種と連携
- 開業医・居宅介護支援事業所にサービスの内容の紹介
- サービスの充実。（セラピストによる個別機能訓練の充実を図る）

1 月より中重度者ケア体制加算の算定、定員 50 名としました。

セラピストによる機能訓練への意識の向上、クッキングレクや買い物で生活リハビリにも力を入れました。

利用者、家族からの声を聴き、その声を取り入れたサービスや社会資源を活用した行事の実施と地域との関わりを持った利用者の自立支援に向けたサービス提供を行う事を計画に入れ、在宅生活を維持継続できる取り組みを積極的に行っていました。

デイ便りやフェイスブック等を通じて津名デイサービスの取り組みを外部に情報発信して行きました。

又、業務内容の見直しによって無駄をなくした効率化、また職員間での連携を密にできる体制を整え、顧客満足の向上とともに E S の向上にも繋がっていった 1 年でした。

平成 30 年度への課題及び展望

利用者、家族から直接の声や潜在的ニーズをくみ取り、利用者が安心して在宅生活が続けられる通所サービスを提供することで、住み慣れた地域で生活が続けられる自立支援に向けたサービス提供を行う。

又、行政や様々な関係機関との連携を密にし、利用者の支援だけでなく家族や地域支援に繋がるサービスの発案、提供をする。

デイ便りやフェイスブック等を通じて津名デイサービスの取り組みを外部に発信し、地域に根差した通所介護をアピールする。

職員間でお互いに意見の出し合える環境を作り、業務の効率化や個々の職員のスキルアップを図り、顧客満足度に繋げることで、やりがいを持って仕事ができるようにする。

新規利用者の獲得と、継続して利用してもらえるよう、地域支援に向けた通所サービスの構築と地域や居宅介護事業所への情報の発信により、利用者を選んで頂けるサービスを提供して行きます。

千鳥会居宅介護支援事業所（千鳥会在宅介護支援センター）

<p>平成 29 年度事業所総括</p> <p>29 年度も、ご利用者のニーズを把握し迅速に必要なサービスの対応ができるようモニタリングの充実に努めるとともに、毎週定期的にケース検討会議を実施することでケアマネジャー間の情報共有を図ると共に、主任ケアマネの指導、他のケアマネからの意見を聞くことで、一人一人の気づきの力を養うことができました。居宅を統合して2年が過ぎ、統合したメリットである、職員教育、人材育成を強化していくことができました。支援家族に対しては抱え込まない介護を呼びかけると同時に、ひまわりの会をはじめ、各地区で行われている認知症をささえる家族の集いを紹介し、参加のお手伝いをさせて頂きながら、介護負担の軽減に繋がるサービスの対応を行ってきました。また、各地域ケア会議やケアマネ連絡会等に定期的に参加する事で、関係機関と顔の見える関係性を保ち、適宜情報交換をしながら地域の動きにも気を配りました。積極的に医療機関へ赴き、医療連携室等と入退院時のスムーズな情報交換を行う事により医療機関とも連携を図る事が出来ました。また、認知症の疑いのある利用者には県立淡路医療センターの認知症疾患医療センターに確定診断を受けるように勧めるとともに、早期に作業療法士や地域包括支援センターの保健師と同行し、利用者が有する能力は何か、どのように支援を行えば在宅生活が継続できるのか等について話し合いを行いながら、個別の適切なケアマネジメントが行なえるように取り組むことで、徐々に在宅生活に於いて出来る事が増えたご利用者もおられ、自立支援に繋げることができました。</p>
<p>平成 30 年度への課題及び展望</p> <p>30 年度は引き続き法令遵守の徹底と、リスク管理、信頼関係の構築、地域包括ケアシステムへの取組、医療と介護の連携を目標にしていきます。また各サービス事業所やインフォーマルなサービスとも情報交換を行い、ご家族の協力も得ながらご利用者の尊厳を守りつつ、自立支援に向けたサービスの提供を目指すとともに、ご利用者・ご家族が安心して在宅生活を継続出来るよう支援していきます。</p> <p>また、これからも、認知症になっても住み慣れた地域、自宅で暮らせるように、職員の資質向上とメンタルヘルスケア、提供する居宅介護支援サービスの質の向上、支援情報の伝達への取り組みなどを継続しながら、個々の介護支援専門員の統一したレベルアップを図ることにより、顧客から選んでいただけるような居宅介護支援事業所を目指します。</p> <p>又、介護保険制度だけにとらわれず広い視野でご利用者の生活及びその方を取り巻く環境を評価し、地域との関係が途切れないように地域への支援も行っていきたいと考えています。</p> <p>千鳥会の取り組みなどを外部に情報発信し、社会福祉法人の在り方やPRに努める。また職員間の連携を密にとり情報共有、報告・連絡・相談がしやすい職場作りを目指し、常に削減を意識し、適正な業務遂行を行う。行政機関、各関係機関等良好な関係性保持継続し新規獲得を行い安定した稼働率を目指していきます。</p>

千鳥会在宅介護支援センター

<p>平成 29 年度事業所総括</p> <p>在宅介護支援センターは地域に根差し、概ね 65 歳以上の高齢者を対象に生活に関わる身近な相談を受け、問題解決の方法について関係機関と連携しながら、一緒に悩みが解決できるよう支援する窓口です。日頃から地域の民生委員、相談専門員、老社会、町内会など多岐の関係者と連携を密にしておくことが、地域における高齢者の相談機関の役割を果たすためには必要であると思います。</p> <p>29 年度、津名地域においては、民生委員の定例会に参加し、在宅介護支援センターの役割を理解して頂き連携を図れるよう情報共有に努めるとともに、独居高齢者の訪問を行い、実態を把握し、状況により介護サービスや地域のインフォーマルサービスにつなげるように動いてきました。津名地区、北淡西地区とも「千鳥会在介・包括・社協との連絡共有会」に毎月出席をし、個別ケースの検討を行い、「地域ケア会議」では、ケース検討を行い、地域課題の発見・把握を行い、地域づくり・資源開発の検討を行い地域包括ケアシステムの実現を目指しています。淡路市にある「3 在介・包括連絡会」にも毎回参加をし、在介が抱える課題などを水平展開しています。</p> <p>また地域住民や企業、学校に対し「認知症サポーター養成講座」を行い認知症への理解や協力、見守りの必要性を啓発し地域力アップに繋がっています。</p> <p>地域に根差した相談機関であるために、各関係機関との連携を強化するのは勿論のこと、今後ますます重要になってくるインフォーマルサービスの活性化と開発に向け各関係機関や地域と連携し誰もが住みやすい地域作り貢献していきます。</p>
<p>平成 30 年度への課題及び展望</p> <p>ご利用者ご家族のニーズを把握し、適切な医療・福祉サービスの提供を行い、ご利用者が住み慣れた地域でご自身らしい在宅生活が継続できるように支援していく。</p> <p>課題発掘のためにも、積極的に地域に出向き出前講座等の啓発を行い、地域、行政、各関係機関と千鳥会との橋渡しや、関係性構築に努め地域の福祉力向上の担い手の1つになるよう支援していきます。</p> <p>そして、千鳥会の取り組みなどを外部に積極的に情報発信しPRに努める。また、職員間の連携を密にとり情報共有、報告・連絡・相談がしやすい職場作りを目指し、経費削減を意識し、適正な業務遂行を行い、安定した運営を行う。</p>

家族介護教室・家族介護交流事業

平成 29 年度事業所総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味のある方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに役立てていただけるよう配慮し、定期的を開催しました。

自宅で介護をされる中で大きなストレスや不安を抱えられている方が多く、相談できない・方法が分からない等の悩みを解消する為にも、家族介護教室の目的や利点等をお伝えし、参加して頂けるよう声掛けに努めていきました。参加する事で今までの悩みの解決方法が見い出せ、視野が広がったとの意見も聞かれ、意義ある家族介護教室を開催することができました。

今後も定期的に開催し、在宅介護においての不安や悩みが少しでも軽減できるよう、今後も様々な角度からの内容を提供していきたいと思っております。

平成 30 年度への課題及び展望

30 年度、家族介護教室及び家族交流事業においては以下の通りの内容を実施する。

介護者自身が悩みを聞いて欲しいとの要望があり今年度も座談会を中心にを行います。

- (1) 座談会
- (2) 他の家族会との交流
- (3) 作業療法、もの作り
- (4) 福祉用具体験
- (5) 施設見学
- (6) 実技
- (7) 終活、成年後見
- (8) 様々な介護保険サービスについての説明
- (9) その他

*現在介護されている方だけでなく、一般に介護に興味のある方など、皆様と私達と一緒に勉強したり、情報交換をしたり、高齢者介護についての話し合いが行えるような雰囲気作りを心がけ、多くの方が参加できるように努めます。

*家族介護者交流事業は、介護者同士が交流を深めるとともに、心身ともにリフレッシュ出来るような企画を計画します。

地域支援事業

平成 29 年度事業所総括

できるだけ住み慣れた地域で自分の力で、活動的な生涯を送りたいという願いを現実のものとするために、要介護、要支援状態になる前から、一人ひとりの状態に応じた予防対策を図るとともに、要介護状態になった場合においても、地域で自立した日常生活を送ることを目的として地域支援事業が実施されます。地域支援事業は介護サービスや、介護予防サービスと並び、介護保険制度の3つの柱の一つとして考えています。26 年度から開始したふれあいの集い・ちどりは、利用者が主体となり、プログラムを決め、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。

高齢者住宅等安心確保事業は、入居者の生活状況に合わせた訪問を行うことで、信頼関係が構築でき、近隣者からの協力も得ることが出来ています。また包括支援センター、関係機関との連携も図れています。

配食サービスでは、バランスと摂れた食事内容と福祉職員が配達するという事で安心感を持っていただいております。お弁当を配達するだけではなく安否確認、コミュニケーションを図ることができています。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのか課題であるが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。

又、平成 30 年 2 月 23 日よりローソン東浦浦店内にケアローソンとして介護相談窓口を開設しました。介護支援専門員等の相談員が常駐し、介護相談援助業務を行い、必要時は、行政機関、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、担当介護支援専門員、事業所等に情報伝達、共有を行い支援しました。

また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みました。

(1) ふれあいの集い・ちどり

独自のサービスとして、H26.4 月から生きがいデイサービスを利用していたご利用者から今後も、定期的に地域の方と親交を持てる場が欲しいと希望され開始しました。

ご利用者が主体となり、プログラムを決め、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。外出を希望され、食事、買い物、季節の花の鑑賞、観劇、初詣と楽しんでいただきました。事業所内では調理も行い、たこ焼き、巻きずし、いなりずしと腕を振るって頂きました。アクティビティとして、カラオケ、手芸、脳トレーニング等を開催、また、9 月に各地区が集まり合同で敬老会を開催し、他地区との交流も実施しました。

(2) 高齢者住宅等安心確保事業

安否確認と生活指導相談などの訪問件数は 3971 件。生活指導相談 1 件。緊急出動 42 件、この緊急通報での出動は独居者で入退院後の体力減退で自宅での生活に不安、水を長時間使用していなくての通報や、殺虫剤に反応する機器の為の出動など 42 件です。又独居者が、死亡・施設に入所・子供宅に移住するなどの理由で退室者も増え、現在 14 件の空室があります。3 住宅の高齢化が進み、住宅内の安否確認・生活指導相談・緊急通報など

の安否確認の継続を行いながら関係機関等と連携し、日々の生活に不安が強い方達には、地域包括支援センターや介護保険サービス・自費の訪問介護利用に繋げるように継続を図っていきます。

(3) 配食サービス

H26.9月から開始した配食サービスは、サンフード(株)の共同によりバランスの摂れた食事内容を提供しています。福祉施設の職員が配達する事で安心感もあり、同時に安否確認とコミュニケーションを図ることも出来ています。最近では、地域包括支援センター、居宅支援事業所からの紹介も増えてきています。今後、益々ご利用者数が増えると予想されます。

(4) 介護相談窓口

H30年2月23日(金)にローソン東浦町浦店内に「千鳥会介護相談窓口」を開設しました。

地域の高齢者、又はその家族、様々な相談に応じ、そのニーズに対応した相談援助を行い、必要時には各関係機関との連絡調整を行い問題解決に努めることを目的とします。また、サロン活動等を通して地域の方が気軽に集え、顔なじみの関係性ができ、必要時には相談援助ができる関係作りを目指します。

平成30年度への課題及び展望

定期的にモニタリングを行い安心・安全にサービスを行う。また、ご利用者との信頼関係構築に努め、必要時には居宅介護支援専門員と連携し相談援助業務が行えるように支援し、地域の福祉課題に対し柔軟に対応できる体制を作り、担い手の1つとなるよう地域支援の啓発に努めていきたいと考えています。

そして、更に地域住民との信頼関係構築し、気軽に相談できる開かれた地域の相談窓口を目指し、常に経費削減、新規獲得を常に意識し、業務を行う。また、新規開拓に力を入れ、必要時には地域支援から介護保険サービスへの移行がスムーズに行えるよう各関係機関との連携を強化していきます。

グループホームしおさい

平成29年度事業所総括

しおさいでは、ご利用者は地域に暮らす住民としての視点で、ご利用者とご家族、そして地域住民との関わり、継続性ある社会参加を重視してきました。日常生活で具体的に毎月の内外行事を計画、実施する事で、ご利用者が楽しみを感じ、生きがいを感じ、快活ある生活の実現を目的にしています。また、職員にとってもやりがいやモチベーションの向上に繋がられるようにしています。

運営面では、利用者稼働率がH28年度、96.3%から、H29年度は96.9%、延べ利用者人数では、6,322名から6,372名となり計50名の増加、増収となりました。H30年度は、稼働率97.5%以上を目標に取り組んでいきます。

支出面では、経年劣化によりルームエアコンを3台、シャワートイレを新たに2か所設置、リビングのテレビを1台交換しました。尚、H30年度は、光熱費の削減対策としてLED電球の導入を計画、実施致します。

防災面では、自主訓練として南海トラフ大地震(津波)避難訓練を実施しました。ご利用者及び職員が安全に避難できるよう、避難経路、避難場所を周知、確認を行いました。今後も継続していきます。

平成30年度への課題及び展望

H30年度は、介護保険の改正がありましたが、基本報酬等現状維持となります。

運営面での利用者稼働率向上により、収入面の増加及び、適切な事業運営が継続できるように取り組んでいきます。具体的には稼働率は97.5%以上を目標とします。

しおさいご利用者が、地域の住民として、日常生活での、楽しみ、いきがいを感じる事ができるようかつ、ご家族との関係性を維持し、継続的な社会参加等により、快活ある生活となるよう今年度も職員一同で協働して努めて参ります。

防災面では、南海トラフ大地震地震の災害に備え、ご利用者及び職員の安全を確保する事を目的にH29年度から南海トラフ大地震避難訓練を定期的に行っていました。今後も継続して訓練を行っていきます。

しおさいデイサービスセンター

平成29年度事業所総括

平成29年度は、延べ利用者数がH28年度、395人から、H29年度、490人となり、

95人の増加となり、収入面での増加となりました。年度内では、1名のご利用者がグループホームしおさいへ入居となりました。また、新規利用者は5月に1人、6月に1人、8月に1人でした。H30年3月末時点で4名の実利用者となっています。H30年度は延べ利用者数で今年度以上を目標に取り組んでいきます。

しおさいデイサービスを利用する事で、ご本人が他者との交流を持ち、閉じこもり防止と社会参加となり、楽しみや、生きがいを感じれるよう、職員間で協働して支援してきました。ご家族に於いては、ご自身の時間の確保や、介護負担が少しでも軽減となるように行い、ご利用者や、ご家族からも喜ばれています。

平成 30 年度への課題及び展望

今年度に於いては、延べ利用者数において、前年度を下回ることなく今年度以上を目標に取り組んでいきます。

H30 年度は、介護保険の改正があり、基本報酬部分で 12～13 点のアップとなります。

また、提供時間が 1 時間単位と変更となり、7 時間～8 時間の体制となります。尚、これまでは 7 時間～9 時間でした。

今後もしおさいデイサービスを利用する事で、ご本人が他者との交流や、閉じこもり防止と社会参加となり、ご本人の楽しみや、生きがいを感じれるよう、また、ご家族に於いては、ご自身の時間の確保や、介護負担の少しでも軽減となるように職員間で協働して支援していきます。ご利用者、ご家族共に喜んで頂ける事を目標に努めて参ります。

特別養護老人ホームゆうらぎ

平成 29 年度事業所総括

ゆうらぎでは、毎年事故減少に向けて取り組んでいます。今年度は、2 点に力を入れました。

①利用者のアセスメント力に力を入れ、状況を細かく把握すること。面接時には他職種も参加し、情報の共有・利用者個々に対して的確なケアを提供する事で事故の減少を目指しました。

②事故分析に力を入れ、ゆうらぎ独自の分析・集計表を作成し入力すればいつ・どこで事故が起きているのかを一目で分かりやすくする事で、的確に対策を講じる事が出来るようにしました。その結果、昨年からアクシデントの位置づけが変更となり比較できない部分はありますが、重大な事故の発生については昨年 2 件に対して今年度は 0 件とする事が出来ました。今後も継続し、また発展させることが出来るようにしていきます。利用者の状態把握では、2 年前から実施している情報シートの有効活用を引き続き行いました。個別ケアを行う中で利用者の情報が必ず必要となってくるため、昨年度に作成した情報シートの更なる活用を行いました。会議時には見直しを図り、利用者の状態変化を見逃さず、変わった際には迅速に変更・周知を実施することで個別ケアの実施が出来ました。また、昨年と同様に面接記録を 3 種類を増やしたことで利用者の状況に応じたアセスメントを実施することが出来ています。今後も継続しながら定期的な見直しを図っていきます。組織については、介護の充実・ケアの統一を図るべく、介護部門を随時統括する管理者として 10 月より介護主任を設け、すべてのフロアの現状を把握し問題が起きた際には的確に対策を講じることが出来るようにしました。且つ、リーダーに対して、毎月面談を行うことで問題解決に向けた対策を迅速に講じる事が出来、退職者の減少に繋がっています。稼働率の維持・向上については、空床が発生した時の為に事前に面接を実施し、いつでも入居が可能な環境を整えておく事ですぐに入居が適うようにしました。

平成 30 年度への課題及び展望

30 年度は、3 年に一度実施される介護報酬改定が行われる年となります。福祉を取り巻く環境は変わろうとしています。その環境変化に適応し、更に職員一丸となり、ゆうらぎ独自のケアが展開できるように取り組んでいきます。

○予防処置の立案、また起きた際の事故分析を詳しく行い事故の減少に繋げ、安全・安心を提供する。

○利用者のアセスメント力を養い、状況を細かく把握する。その内容を取り組みやケアに展開し、個別ケアを実施する。また、内容を会議等で伝達・周知させ他職種一体となり施設ケアを行う。

○入居時には本人・家族より意向を確認し希望に即したケアを提供する。看取りを希望された際、家族と積極的にカンファレンスを実施しニーズを把握し、個々に応じた看取り介護が展開できるように支援していく。

○身体拘束廃止に向けて、施設一丸となり取り組む。新規入居の際にアセスメントを行い、身体拘束廃止を目指す。身体拘束が必要と判断された場合、マニュアルに沿って進める。また委員会を定期的の実施し見直しを図っていく。

○行事实施後には、すぐに広報媒体等にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。

○リーダー面談を毎月実施し課題の抽出・解決に向けて一体となって取り組む。また、何か問題を抽出した際には速やかに解決を図り働きやすい職場環境をつくる。

○主任・リーダーが成長を目的とした目標を掲げ、各職員が一体となって目標に向かい取り組む事が出来る体制を構築する。

○新規加算取得に向けて、他職種が一体となって体制を構築し早期取得に向けて取り組み、選ばれる施設作りを目指す。

○ショートステイ稼働率 100%以上（空床利用含む）を目指す。

ゆうらぎデイサービスセンター

平成 29 年度事業所総括

昨年度末からの利用者の入院・入所・死亡、それに伴う利用者の減少が、今年度にも大きな影響を及ぼしている為、今後の取り組みとして、居宅事業所に対する、営業の試行錯誤、現在利用されている利用者の満足度の向上がより必要ではないかと考えています。

29 年度は、目標とした稼働率を維持できませんでした。一番の要因は新規利用者を確保できなかったことにあると思います。毎年、入院や入所などで利用中止になる方は多数いますが、それを補う利用者を確保できなかった事が要因ではないかと考えます。

アクシデント・インシデントの件数は昨年より減少しましたが、自宅で転倒され入院になったケースは昨年よりも増加した為、在宅生活における問題点を把握し、利用者に注意を促していきます。

今年度は 7 月まで 2 名の職員が病欠で休まれていましたが、看護職員は、4 名体制となり、より一層の危機管理に対しての意識向上に努めてくれたと思います。今後も職員の気づきを増やし、予防処置の充実を図ることにより、より安全で快適な利用環境の整備に努めてまいります。

29 年度は、2 名の新入職員を迎える事となった為、先輩の指導のもとサービスの質を落とさぬように努めてきましたが、前年度に比べ利用者を増やせなかったことは、来年度の課題です。

平成 30 年度への課題及び展望

30 年度は下記の目標を設定し、職員一丸となり更なる利用者の確保を目指します。

- 増加する利用者に統一したサービスを提供していく為に、施設内部・外部への研修の参加・他事業所への見学を行う事で、自事業所の質の向上を図ります。
- 各職種の能力を高める為に、資格取得を図ります。
- 事故を未然に防ぐ為に、職員間で情報の共有を図っていきます。
- 利用者の普段口にされることの無い声を吸い上げ、顧客満足に努めます。
- 現在のサービスを満足とするのではなく、新しいレクリエーションへの取り組みを行います。
- より個別性を高め、個々との関わりを密にとっていきます。
- 地域との関わりも今後は、より深めていきます。

ゆうらぎ訪問介護ステーション

平成 29 年度事業所総括

総合事業をはじめ 1 年が経ちました。その中での訪問介護事業所としてどのように変わって来たか、どのように変えていくのが良いか悩んだ 1 年でもありました。まず取り組んだのは生活支援。介護の中での「生活支援」ホームヘルパーに求められるのはエンパワメントアプローチが重要になる。まず取り組んだのは「生活環境の工夫」次に「掃除における専門性」「洗濯における専門性」調理・・・買い物・・・自立を支える家事・・・等々 ICF と介護予防の視点も合わせて学んできました。が勉強会では理解できても実際現場に出ると今までどおりの訪問内容になってしまう。今年度は、何かをしたら加算するのではなく「介護の質」を見てほしいと願う。本人の希望する生活を支えているかどうか重要と考えている。その中で、利用者宅に潜む事故のリスクを学んで未然に防ぐ視点と「もしも」の時の対応をも学んでいきたいと思っています。また喀痰吸引の勉強も終え修了証書を手に入れました。事業所登録を済ませ現場で活かせるよう前向きに取り組んでいきたいと考えています。

平成 30 年度への課題及び展望

30 年度は、介護保険制度改正・介護報酬改定に準備をすすめていきます。また、利用者宅に潜むリスクや起こり得る事故を減らすにはどうしたらよいか、そして、万が一自己が起こってしまった時の対応を考えて行こうと思います。さらに、働きたくなる、頑張りたくなるホームヘルパーの条件を考えて行き、サービス提供責任者の業務の進め方を学んでいこうと考えています。

- 利用者にとっての安心できるような環境づくり、事故リスクをなるべく減らすためのアセスメント
- 利用者ひとりひとりのニーズを意識し、可能性の実現と生活の質の向上に努め、円滑なコミュニケーションを図る
- 訪問サービス内容、自費サービスの運営の充実。
- 良好で温かい人間関係を築き、会議等の場で責任ある意見が言える環境づくり。
- 明確な目標設定を行い、達成に向けた支援の実施
- 責任感の強い職員の育成と専門技術習得の支援
- 介護保険制度改正、介護報酬改定に伴い、これからの訪問介護事業所のあり方、方向性への課題

養護老人ホーム北淡荘

平成 29 年度事業所総括

平成 29 年度は、例年以上に退所者が多く、月初め満床との目標が一度も達成できない結果となりました。要因としては、施設開設から 10 年以上が経過し、開設時から入所されていた方の高齢化による死亡退所、入所後に状態変化や、集団生活に馴染めず退所、施設変更をされた事、そして、福祉事務所の措置件数が少なく、新規入所者の確保が出来なかった事が考えられます。その結果、入所者確保が出来なかった事による減収と、施設開設から 10 年以上経過し、設備の劣化・老朽化によるメンテナンスでの出費もあり、厳しい施設運営になりました。しかし、今年度も大きな事故や、感染症の発生もなく、安心・安全な施設運営ができました。

<p>平成 30 年度への課題及び展望</p> <p>利用者の安全・安心を第一に支援し、現在多数ある空床を、出来るだけ早い時期に満床とするよう取り組むと共に、経費削減、業務の効率化にも努め、安定した施設運営ができるよう取り組んでいきたいと思ひます。</p> <p>○利用者情報の活用と、関わり、観察を深める事により、安全、安心な生活が継続して送れる環境を作る</p> <p>○地域包括、民生委員、病院、との連携を図り、養護利用者の発掘に努める</p> <p>○職種間の連携、協力を図りつつ、緊張感のある職場環境を作る</p> <p>○達成感が得られる目標設定と達成に向けた支援の実施</p> <p>○利用者が、地域秩序を乱す事なく生活が送れるように支援する</p> <p>○養護老人ホームの月初充足率 98%（164 名）、特定利用者の月初充足率 95%（57 名）を目指し、併せて、経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。</p>

小規模多機能型居宅介護事業所 むくもり

<p>平成 29 年度事業所総括</p> <p>平成 29 年度平均登録者 23,2 名となりました。登録者稼働率 80%となりました。月平均（通い人数 12.2 名）（訪問回数 13 回）（泊まり人数 4.2 名）。「要介護 1」の方の増加で通い、泊まり回数の増、又は独居の方の訪問回数増、緊急時受け入れなど一人ひとりの多様な生活に対応した柔軟なサービス提供を心がけました</p> <p>サービス評価実施では、事業所は提供するサービスの質を自ら評価すると共に、定期的な外部の者による評価をうけて、その結果質の向上の取組、チームのステップアップしていく者で自己評価（事業所評価）、外部評価（保険者、地域包括支援センター初め地域住民、運営推進会議メンバー）を自らの振り返りや質の向上を図るものであり、改善点や課題など見直す機会となり、昨年度課題であった職員の質の向上で施設外研修など月 1 回外部研修を目途に参加し、学べる体制をとり職員会議で得た知識を共有しました。課題を吸い上げる事により意識の向上ができたと思ひます。</p> <p>9 月には 10 周年記念会(バザー 介護相談)を開催。家族、ボランティアの方々含め 76 名参加で大勢の方々協力の元、盛大にできた事で地域社会・地域住民にも貢献できたと感じる。バザーでは収益は九州北部大地震義援金とし送らせて頂き、介護相談では 3 件の相談内容がありました。今後もご利用者に満足して頂けるよう、職員の人材育成と経営の安定化に努め、法令の視点からサービスの質の維持・継続を図り、地域住民、行政や関係機関及び各事業者と連携・協力し、地域の皆様の期待に応えられるよう、身近な必要とされる事業を展開して参ります。</p>
<p>平成 30 年度への課題及び展望</p> <p>平成 30 年度においては、介護保険改正。小規模多機能報酬やその他のサービスは変わりませんが、地元の小学校や保育所への行事にも参加させて頂き、地域の高齢者や子供達との交流を繋げるようにします。又施設内での催しの充実を図って行きます。事業運営面では開設当時より建物、設備資金借入金の残金全額返済する事ができました。今後は設備改修をしなければならない時期、その為には登録者数の安定と経費削減ではコスト意識をもち安定した運営の確保を目指します。</p>

佐野デイサービスセンター

<p>平成 29 年度事業所総括</p> <p>1. 平成 29 年度 総括</p> <p>昨年度より、介護職員不足から利用者定員を 25 名に変更致しました。今年度から介護予防事業が淡路市総合事業に変わり、介護報酬減収となりました。引き続きご利用者に提供するサービス内容の充実に取り組んで参りました。ご利用者の個別性を重視したレクリエーションや季節感を取り入れた外出行事の実施、毎月ボランティアの慰問、又本年度よりプログラムに認知症予防を組み入れました。地域住民の身近な拠り所としましては、週 1 回いきいき 100 歳体操の場所提供、地域のボランティアの方との交流、佐野保育園児との交流会を実施、秋祭りの開催等、地域との繋がりを図ることができました。しかし、2 月～死亡 5 名・肺炎・骨折等による入院、長期欠席、死亡者増加に対する新規利用者補充至らず、結果、延利用者数 5,711 名と前年度 5,891 名を下回ってしまいました。年平均稼働率は 73.6%となりました。</p> <p>30 年度は更なる介護報酬削減が予定されている事もあり、新規加算等を考えていきます。</p>
<p>平成 30 年度への課題及び展望</p> <p>今年度は、介護報酬の改定があり、マイナス改定となる予定です。1 日平均 20 名（稼働率 80%）を目指すことと新たに加算、サービス提供体制強化加算Ⅱ（3 年以上経験職員を 30%以上配置）を新規で撰る事で財政基盤の安定を図る。財政基盤の安定を図るには利用者の継続するサービスの充実が必要であり、集団と個別レクリエーション、外出行事の見直しを行う。利用者アンケートを実施することで利用者ニーズの把握を行う。職員間での連携を図り、佐野デイサービスセンターの単独事業所ならではの事を模索し実施していくことに努めます。佐野デイにまた、行きたいと思ってもらえる様なデイサービスにしていきたいと思ひます。11 月以降の稼働率を上げられる様努力していきます。</p>

地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ

平成 29 年度事業所総括

開設から 6 年が経ち、平成 29 年度は

- * ご家族、地域ボランティアとの交流を図り、ご利用者の外出支援、行事の取り組み強化
- * 嘱託医の変更に伴い、地域医療との新たな関係作りと適切な健康管理の継続を図る。
- * 目標稼働率の達成と予算内での業務の遂行 を大きな目標として進めてきた。

『ご家族、地域ボランティアとの交流を図り、ご利用者の外出支援、行事の取り組み強化』に関しては、ご利用者やご家族の希望や意向を聞き、職員ご利用者とご家族に付き添いご自宅で過ごす時間を持つことが出来た。また、近隣のカフェに喫茶の時間にご利用者をお連れし、楽しんでいただく時間も持つことができた。地域ボランティアとの交流では、定期では大正琴の演奏、ハロウィンには英会話教室の生徒の仮装、クリスマスにはプロのマジシャンが来所するなど、多種多様なボランティアの方に来て頂いた。ご利用者も毎回地域ボランティアの方の来所を楽しみにされている。行事の取り組みにおいては、春祭りや日帰り旅行、敬老会を施設の 3 大行事とし、ご家族の参加も年々多くなってきており、ご利用者がご家族と過ごす大切な時間となっている。

『嘱託医の変更に伴い、地域医療との新たな関係作りと適切な健康管理の継続を図る』については今年度より東浦平成病院に嘱託医が変更となり嘱託医師や入院先も変わり、ご家族の中にも嘱託医が変わる事への不安やご利用者への影響を気にされる方も居ましたが事前に関係職種が集まり連携や業務調整に関しての検討会や報告会を開催し、連携を行っていく中で問題点が発生すればその都度意見交換や問題点を解消しながら業務改善を継続的に行いました。その結果、今では良い信頼関係で適切な健康管理が継続的に行えている。ご家族からもご意見や苦情等もなくスムーズなサービスの提供を行えている。

『目標稼働率の達成と予算内での業務の遂行』に関しては、長期入居は毎月入院者が 2 名程度居る状況となったが、その長期入居者の空床を利用しての短期入所の受け入れを積極的に行い、結果的には、長期入居と短期入所の合計稼働率で年間の目標値(98.3%)を達成出来た。また、平成 29 年 9 月度にはほほえみ開設以来初となる長期入居と短期入所とも稼働率が 100%を達成できた。達成できた要因としては、ご利用者、ご家族はもちろん各部署連携や関係機関の協力と適切なサービスの調整が出来たことによるが、今後もこれまで以上により良いサービスの提供と信頼関係を築いていけるよう努めていきたい。

来年度に向けては、施設内のサービスだけでなく地域に目を向け各々専門職として貢献し続けるように継続的に職員の指導、教育や研修会への参加や勉強会の実施などを行っていききたい。また、地域の方との交流や会合なども積極的に参加し、情報の共有や関係性の強化を図り地域貢献を果たし、『地域になくしてはならない施設』となれるよう努めていきたい

平成 30 年度への課題及び展望

来年度に向けては、まずはご利用者やご家族に『より良い安心で安全なサービスの提供を行う』ことの継続を図り、その上であらゆる分野での「質の向上」を目指し取り組んでいきたい。組織体制においては、職種間連携や情報共有を図り他職種共同で個々のご利用者やご家族を効果的に支え、支援していけるよう努めていきたい。運営面においては、無駄な支出は抑え、目標とする稼働率以上の結果を残せるように日々の業務改善を行い、また地域や関係機関からの信頼を得られるように地域との関りや活動などにも積極的に参加していききたい。

千鳥会デイサービスセンター ほほえみ

平成 29 年度事業所総括

29 年度は昨年度と変わらず通常規模で運営、8 月から定員を 35 名へと増員しました。1 日の平均利用者数は 24 名程度と、昨年度から若干の増加となっています。4 月より要支援者の利用が介護予防から総合事業へ移行となり、利用回数の制限が厳しくなった事の影響もあり、7 月まで利用人数の減少がありました。8 月頃から新規等、利用人数が増え、介護度の重度の方の利用によって単価が上昇したことで年間を通しての当初予算の達成をすることが出来ました。職員については、1 名異動があり、3 名入職し 1 名退職となっています。介護未経験者の職員への教育も課題として出てきました。

29 年度の目標としては、①新しい取り組みによる満足度の向上、各サービスの質の向上。②困難ケースの受け入れ。③地域貢献活動の実施。④当初予算の達成。を掲げて取り組みました。

新しい取り組みでは、日帰り旅行の実施、新しいカラオケ機器の活用、4 DAS（認知症機能訓練）の実施を行いました。日帰り旅行では神戸のどうぶつ王国へ行き、参加されたご利用者は皆さん大変喜ばれており、また行きたいとの声が多くありました。新しいカラオケ機器は口腔体操や体操のメニューが入っており、体操メニューのひとつとして活用しました。4 DAS については昨年度研修に参加した職員が主となって、対象者を選定して取り組みました。ご利用者に合わせたプログラムを実施することで、ご利用者の様子にも変化が見られ、他者との関わりや、メニューへの参加へと繋がりました。職員もご利用者に合わせたメニューを考える等、意識の変化がありました。また、デイ独自の広報誌を発刊し、行事や取り組みのご家族への報告、居宅事業所へのアピールに活用しています。今年度の取り組みについては法人内の研究発表会での発表も行いました。自分たちの取り組みをまとめ、振り返る中で新たな課題の発見等に繋がりました。困難ケースの受け入れに関しては、困難だと思われるケースもありましたが、利用相談はすべて受け入れを行い、体験された方は全員利用へと繋がりました。昨年度から引き続き実施している夕食サービスは、利用人数は変わりませんが、ご利用者の在宅生活の継続支援になっているものと思っています。

平成 30 年度への課題及び展望

来年度は、質の向上が事業所のテーマとなっており、接遇面の質の向上と行事の質の向上に取り組んでいきたいと考えています。また、介護報酬の改定があり、ほほえみデイは報酬が下がる見込みとなっています。新規のご利用者の受け入れはもちろんですが、現在のご利用者の方にも満足していただけるサービスとしていく事で、利用時間の延長や回数の増回へと繋げ、来年度も当初予算を達成出来るように取り組んでいきたいと思えます。

小規模多機能型居宅介護事業所 ほほえみ

平成 29 年度事業所総括

平成 27 年度介護保険制度改正に伴う定員、報酬の変更から 3 年目を迎えました。平成 29 年の新たな事業所体制の充実として、多様なニーズに対応するために福祉観や倫理観を養えるように事業所独自のスローガンを作成。毎日、朝の朝礼時に、職員一同で確認してきました。1 年を通して欠かさず取り組み、職員個々として事業所として福祉観や倫理観も明白なものになってきたかと感じています。また職員体制として看護職員の増員を行い、利用者支援における健康管理面の質の向上を図りました。2 名の看護師にて常勤換算 1 名を配置。当初は通い、泊り、訪問など支援内容が多岐に渡ることで介護、看護間での役割分担に戸惑いもありました。しかし徐々に、各々の専門職の視点からの取り組みが行え、互いに意見を尊重し合い利用者支援において新たな取り組みにつながったといえます。具体的には、予防的な観点からの受診や医療対応も、ご本人ご家族の理解のもと取り組み、利用者の健康管理に大きくつながりました。結果、長期的な入院者も減り、生活支援や服薬等によって住み慣れた地域、自宅での暮らしを支援できたように思います。登録利用者も施設入居等による登録解除者も例年通りありながらも、新規利用者の相談にも柔軟に対応することで、登録利用者数も平均 27 名程度を維持。自事業所の例年に比べても、また他事業所に比べても高水準の運営につながったと自負しています。余暇活動面での取り組みとしては、利用者への生活支援のみならず、利用者の暮らしにおける日常を取り戻すための取り組みとなる機会を意図的に設けていきました。従来から慣れ親しんだ地域での外出や行事参加には重点を置いてきました。加えて利用者個々の生活歴の中で、趣味や嗜好を活かした、外出や行事への参加へとその幅を広げ、新たな取り組みへの挑戦でした。利用者をグループごとに分け、生活歴や嗜好のなかから、少人数単位でありながらも以前の当たり前のような、楽しみの遠出の外出を数多く企画しました。具体的には、5 月淡路だんじり祭り（利用者 5 名：南あわじ市）への参加。6 月明石三白館大衆演劇観覧旅行（利用者 5 名：明石市）の実施。10 月湯村温泉宿泊旅行（利用者 5 名：新温泉町）の実施。12 月淡路人形浄瑠璃観覧旅行（利用者 4 名：南あわじ市）の実施などです。もちろん地域の行事や外出も数多く実施でき、暮らしのなかでの気持ちの部分の支援につながったのではないかと考えております。

平成 30 年度への課題及び展望

平成 30 年度は昨年度の取り組みを継続し、更なる質の向上を図っていきます。また日々の支援の中でご利用者、ご家族、地域との関りを深め、生き方や価値観の理解と支援に努めます。そして、その主体性を尊重し、寄り添う支援の在り方を模索し、実現していきます。しいては生活支援のみならず、多様な自己実現の支援へとつなげていきたいと考えています。

ちびっこランドちどり

平成 29 年度事業所総括

認可保育所として 3 年目を迎え子ども達は 1 つ進級し、保護者と進級した喜びを共有しつつまた 1 年がスタートしました。定員 6 名に対し、一時保育希望者も増え、1 日平均 6~7 名在籍しているちびっこランドですが、保育指針をもとに、年齢別年間保育計画、自由あそびと一斉活動の時間をバランスよく盛り込み、発達過程や個々の個性に配慮した月間保育計画を作成し、異年齢児が楽しく過ごせる保育内容の充実に努めてきました。異年齢の子ども達が一緒に過ごし自由に遊ぶ中で、小さい子への思いやりの心も芽生えました。

まず保育者は子ども達の言葉の獲得につなげるために「ゆっくり、はっきり」とした言葉かけをし、穏やかに保育をすることに心がけました。それに伴い、子ども達のやりたいことに応じ保育プログラムを臨機応変に変更し、子ども達の興味関心度を引き出すよう工夫しました。そのことで、子ども達はお友達同士でルールを作ってごっこ遊びを楽しむようになり、子ども達同士で遊び発達に大きく結びつくことが出来ました。

行事計画では、四季を通して多彩な行事を職員間で話し合い、子ども達が心から楽しめる行事になるようにと計画し実施しました。保護者の方からも、行事に対して喜びの声も沢山いただくことが出来、喜びの声は職員にとって次への意欲となりました。お天気の良い日は積極的に戸外へ散策にできるようにし、運動面への配慮も行いました。

地域の方とも挨拶をするうちに親しくなり、ちびっこランドの存在を知ってもらう良い機会となり今後も続けていきたいと思えます。

昼食については、管理栄養士と話をしながら子ども達が食べやすい大きさや味付けで提供しました。乳児の授乳については抱っこで授乳し、成長に合わせて保護者と話し合いながら離乳食を提供しました。少しずつ食べる量も増えていき離乳に向けて今後も進めていきます。

午睡やトイレトレーニングは、一人ひとりの生活リズムに合わせた環境設定のもと実施。基本的な生活習慣の獲得が無理なく進められる様配慮しました。

毎月避難訓練を実施し、大規模災害や不審者に関して職員全員で対応策の勉強会を実施しました。子ども達へも、地震や火災に対する怖さや心構えなどを分かりやすくお話ししました。

保育の問い合わせや、地域からの要望もあり、9 月より定員数を 9 名に変更し、園児数が増え賑やかになりました。そのことで保育の見直しを行い、保護者や保育者と密な情報交換を行い、子ども達の環境づくりに努めました。

平成 30 年度への課題及び展望

地域での知名度も上がり、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上と、保育環境や保育機能また、保育内容の充実に図り計画、実施していきます。

また、地域における子育てニーズを把握し、園の周辺や、最近体験していることの見直しを図りながら更なる機会を検討していきたいと思えます。